

第3回塩竈市立学校規模適正化等検討委員会会議録

◆日時 令和6年9月19日(木) 午後6時00分～午後7時35分

◆場所 壱番館庁舎4階視聴覚室

◆出席委員

会 長	高 橋 仁	副 会 長	佐々木 利佳子
委 員	佐 藤 英	委 員	堀 内 瑞
委 員	高 橋 陽 香	委 員	江 湖 貴 恵
委 員	高 橋 理	委 員	今 野 元 博
委 員	本 間 良		

◆欠席委員

委 員 伊 藤 咲 那

◆事務局

教 育 長	黒 田 賢 一	教 育 部 長	末 永 量 太
教育総務課			
次長兼課長	櫻 下 真 子	課長補佐兼教育総務係長	鈴 木 亮 平
学校教育課			
参事兼課長	松 崎 和 佳 子	副参事兼課長補佐	佐 藤 和 夫
主幹兼学校教育係長	津 田 康 之	主幹兼学習支援係長	佐 藤 拓 郎
主 事	鈴 木 卓 哉		
生涯学習課			
主 査	千 田 孝 徳		

◆次 第

1 開会

2 教育長挨拶

3 会長挨拶

4 資料説明

(1) 令和4年度「学校の在り方検討会」及び「今後の学校の在り方に関する意見交換会」に関する取組概要について

(2) 令和6年度塩竈市教育基本方針について

5 議事

学校規模の適正化等に関する方針(案)の骨子について

6 その他

7 閉会

1 開会 午後6時00分

2 教育長挨拶

黒田教育長より挨拶

3 会長挨拶

高橋会長より挨拶

4 資料説明

松崎学校教育課長から、以下のことについて資料に基づき説明

- (1) 令和4年度「学校の在り方検討会」及び「今後の学校の在り方に関する意見交換会」に関する取組概要について
- (2) 令和6年度塩竈市教育基本方針について

〔主な質疑〕

なし

5 議事

「学校規模の適正化等に関する方針（案）の骨子について」

松崎学校教育課長から、資料に基づき説明

〔主な質疑〕

委 員 骨子案について「記載例」とあるが、あくまで他自治体の参考という認識でよろしいか。

事 務 局 その通りである。

委 員 骨子案では様々な方法、基準等の選択肢を示すという認識でよろしいか。

委 員 委員会での決めようであると考え。具体的な数字まで委員会で合意ができれば、そういった提案を行いたい。
また、選択肢や留意すべき点を提案する方法もあると思うが、議論をする中であくまでも基本を示すということになると思われる。時間も限られているため、できる範囲でやっていきたい。

委 員 どの学校がどのように困っているのかなど各学校の実情がわからない。何もない中では意見しにくい部分があるので、どういことを求められているか改めて伺いたい。

事務局 特殊事情にはおそらくマクロの部分とミクロの部分があり、今出たものは各学校のミクロの部分。これはいずれ何らかの形でご報告させていただきたい。

塩竈市は狭い地域という地政学的な特徴や、人口減少が進んでいるという事情があるので、そういった点も踏まえ、塩竈市の地域的な事情に基づいた議論、ご意見をいただきたい。

委員 塩竈市の小学校は現在全てコミュニティスクールになっている。それぞれ地域の方、保護者の方を合わせた学校運営協議会で、学校の教育活動などについて意見をいただきながら学校を経営、運営しているという状況。また、地域の人材を活用した学校行事や授業で講師に来ていただいただき、塩竈の良いところ、故郷を学ぶという取り組みもそれぞれの学校が行っている。

必ずしも国の標準ということではなくて、複式学級にも触れている例があるので、そういったことも議論をしていくべきと認識している。

委員 今も大事だが、10年後、15年後に塩竈市の学校はどういう形であるべきなのかを考える必要がある。特色を持った教育活動を行っている学校はあるが、それが10年後、15年後持続可能かと言われればどうか。確かにどこの学校がどうなっているかの情報があればなお良いと思うが、塩竈市の子供たちが減少していく中でどのような学校教育環境が望ましいか答申をすべきという認識である。

委員 事務局はいかがか。

事務局 お話の通りである。それぞれの地域や学校のミクロ的なところを話してしまうと、方針がまとめづらくなってしまう。先を見た時に、塩竈の子供たちをどう導いていけたらいいのかというところを念頭においていきたい。今回はあくまでもたたき台を作る。今後時間をかけて地域の皆様や学校に意見を聞くことになるため、骨子案に示した項目等について様々なご意見をいただきたい。

委員 骨子案のところでは「基準を記述する」と記載があり、委員会で基準を作ると捉えられてしまう。ここでは基準に対する考え方をまとめるという意味だと理解する。

- 委員 亘理町の案の中で「勤務する教員の思い」という項目があった。その中では教員に対してアンケートをとっており、児童生徒数に対して学校が多すぎるといふ現状を教員がしっかり把握していることがわかっているといふことが感じ取れた。
- 塩竈市で学校数や学級数を減らすといふ方向性になったとき、他の市町村と比べての塩竈の現状があった方がよいのではないか。
- 委員 亘理町の記述を参考にして、客観的な数字が見えるような工夫を事務局にお願いしたい。
- 委員 骨子案について(1)対象校の選定方法、(2)の適正化の手法と考え方との記載があるが、(2)適正化の手法と考え方の方が上位にくるべきではないか。
- また、一番上にあるべきは塩竈市の教育をどのようにすべきかであるといふ意見も出ているため、未来の部分には塩竈市としての教育の理念を記載すべきではないか。
- 委員 塩竈市の教育に対する理念は取り入れるべきである。
- 「適正化の推進に向けた基本的な考え」の(1)として、市の理念を取り入れる。(2)として、その際の適正化の手法。(3)として、対象校の選定と適正配置相手校の選定基準をまとめて作って欲しい。
- また、「満たすべき基準」という表現には違和感がある。今のままで10年、20年後続ければその方がよいので、目安や基準は作りたくて作るわけではない。しかし、未来のことを考えると子供たちの数が少なくなっている現状があるため、どうしてもスモールパッケージにしなければならない。その時にどうしても一定の目安がないと、どうするかが決まらないので消極的な方法として1つの目安を決めざるを得ない。その時にはこういうことを考えましょう、という書き方をした方がよいと思う。
- 以上から、満たすべき基準のところまでをまとめて(3)ということで、意見が出たようなことについて盛り込んで書いていただきたい。
- 委員 県内のある自治体においては、どこかの学校に吸収されるのではなく、1度どちらも閉校として、新しい学校として統合させる「対等統合」といふ手法があった。一方、どちらかの学校が吸収される形での統合もある。
- 適正の手法と考え方の根本まで言及すべきなのか、それともその部分は事務局にお任せすべきなのか。

- 委員 統合については、2つの手法があるとのことで、その方法については事務局で十分考えていただきたい。
- どちらの方法も一長一短であるため、どちらがいいとはなかなか言い切れない。対等統合の方が新しい学校というイメージは作れるが、様々な理由があってそれができないケースもある。
- ここでそれをどちらかというように断定的に書くのは避けた方がいい。どちらにしても、両方の学校の歴史と伝統や地域の皆さんの考え方などを十分に汲みながら進めていくべきだということは留意事項として入れたいと思う。
- 委員 適正化等の推進に向けた基本的な考えの「(5)適正配置を進める上で配慮すべき事項」には、地域の方々の納得感といったところも観点として入れるべきではないか。
- 委員 適正化等の推進に向けた基本的な考えの(1)で市の理念が書かれ、(3)で適正化に向けた手法と考え方を書くことになると思うが、それを進めるにあたって市としてどのように考えるかということは、大きく1つ出すべきと考える。この部分の意見交換は本日举行わないのでまずは事務局にお任せしたい。
- 次回は今回の議論を基にこの骨子案に少し肉付けしたたたき台のようなものを事務局に提出していただきたい。
- 委員 複式学級を避ける方向で検討するのか、学校の特色を優先すべきなのか、学校の老朽化等も考慮しながら検討すべきのかなど適正化に向けた方向性はどこに持っていくべきなのか。
- 委員 具体的にいくらという話ではないが、お金の話はしなければならない。改修や新築をするにしても多額のお金がかかる。
- また、少人数の複式学級にはメリットとデメリットがそれぞれあるのでそこは記載しても良いと思う。
- 子供たちの数が減少していくことを前提に、委員会としてはそういった点も考えた答申を出せばいいと思っている。
- 委員 「現状と課題」の部分で、学校施設の状況（老朽化・改修の有無）について記載するとあるが、実際にどの程度の金額がかかっているのかは記載するのか。より具体的な数値を見せることで現実性が見えてくるのではないか。

- 委員 見えるようにすることで納得性を高めていく。そのためには、文章の中に客観性を高める 1 つの材料として入れ込むということで、事務局には検討いただきたい。
- 持続可能という言葉も大事なキーワードであるためできれば入れていただきたい。
- 塩竈市も持続性のある行政組織であり、そこにある学校教育も持続性のある持続可能なものでなければならないと思うため、そういった観点で、将来的にどうするかを検討したい。
- 委員 1 学級あたりの人数も明記すべきか。
- 委員 令和 7 年度から国の基準では小学校は 1 学級あたり 35 人を上限とすることになっているが、ここから市町村独自で 35 人以下にした場合はその分お金がかかってしまう。
- 県も同様に国との調整を行っており、なかなか独自に踏み切れないところがあるようだが、市町村はさらに厳しい状況があると思う。
- 希望としては、できるだけきめ細かな教育ができるようなクラス編成について検討してもらい、入れ込んでもらいたい。
- 委員 現場の意見、PTA の意見、地域の意見は入れ込んだ方が良いと思う。
- 反対意見もどうしても出てしまうと思うが、反対意見の人にも、きちんと考えて作っているということが伝わるものにしたい。
- 委員 以前の検討会や議事録を読むと、かなりの意見が出ている。それを 1 つにまとめることは大変難しいことだが、今までの議論で出た内容や、児童生徒の考えは書ければ書きたい。
- 様々な考え方を踏まえた上で、この適正化についての基本的な考え方を示すことができれば良いと思うので、事務局にはその点を踏まえてまとめてほしい。
- 委員 国の示す学校規模の標準に合致するような編制をした場合、国から補助金が出ることはあるのか。
- 事務局 あくまでも標準として示されているものであるため補助金等はない。
- 関連として、宮城県では 1 学級当たりの生徒数は中学生の場合、1 年生が 35 人、2・3 年生が 40 人と設定しており、その基準に基づいた学級数で教員を配置している。市独自で学級数を少なくした場合は、必要な教員数は県から配置されない。

- 委員 塩竈市が財政的に厳しいという点は事実。その事実を見た上で、どれだけ子供たちに良い環境を作れるかという視点はとても大事である。どのような形になるかは別にしても、現状分析の中で入れ込むことはできると思うので、事務局に検討いただきたい。
- 委員 高校では、GIGA スクール構想で遠隔授業も可能となっていることで、小規模校が別な学校と一緒に遠隔で授業を受けられるようなシステムができしており、義務教育にもいずれおりてくるのではないかとされている。今後ますます ICT 化が進んでいくと、オンライン授業は当然になっていき、小さい学校に限らず学校同士の交流は進んでいくと思うが、小さい学校だからこその授業の形など、そのような視点も踏まえながら今後の教育ビジョンを示していければと思う。
- 委員 小さい学校を残すことと、遠隔あるいはオンラインでいろんなコミュニケーションができる ICT を活用するということは両立すべきところである。人数の少ない学校の切磋琢磨がしづらい環境であるなどのデメリットを ICT の活用で、一定の人数の規模も確保し、対面での様々なコミュニケーション能力をつけていく。それと同時に、ICT を活用することでその個別最適化を学校教育の環境として目指していく、そのような両面で書いてもらおうと良いのではないかな。
- 委員 今後完成するたたき台は、多くの市民の方や子供たちが目にするものであるため、誰がみてもわかるような形が 1 番である。全国の標準はあるものの、塩竈市にとってちょうどいい状態になっていけばいい。子供たちにとって、どのような形がより最善な方法なのかを考えていくことがより大切になる。また、適正化を行った後のフォローが大切であり、再編をして終わりではない。その後も様々な問題が出てくることもあると思う。
- 委員 誰が読んでもわかる文章にしてほしい。塩竈市にとってより良い形を考えた結果であることを文章の中に示していくときに、「適正化の方針」などその言葉が何を意味するのか誰が読んでもわかるような表現をすべきである。また、再編をした学校は最初の何年かは困難も多いと思う。その時にどのような対応をするのかなど、我々が考えられるものはできるだけ多く、留意事項ということで書き込まなければならない。

委員 基本方針にもある「未来に羽ばたく塩竈っ子の育成」を目指すということは、それを育てる先生の育成も必要と感じる。
児童生徒の心理的負担の軽減はもちろんのこと、先生の心理的負担もあると感じるため、ぜひ先生を守っていただきたい。

委員 塩竈市は全てコミュニティスクール化しているので、地域の保護者の皆様、そして地域の住民の皆様がサポーターとして学校の様々な活動に協力していただいている。そのため、他の地区より負担は軽減されているかもしれないが、今後もコミュニケーションを取っていかないといけない。

6 その他

第4回の開催は、令和6年10月17日（木）に決定

7 閉会 午後7時35分